



写真1: タイワンアイアシ。シッキム・アッサム、1959/10/5、木原 均・中尾佐助採集。

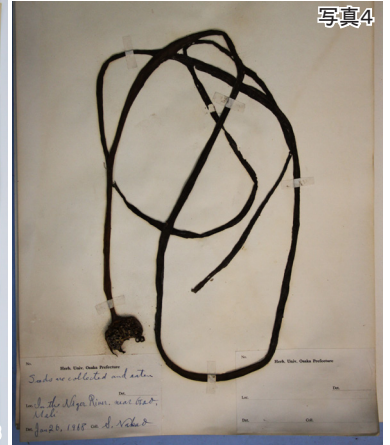


写真2: 写真1の拡大。 写真3 シアバターノキ。パラコンとボヒコンの間にて。ダホメ共和国、1968/2/3。 写真4: スイレンの一種。塊状の果実の部分に種子が含まれている。マリ共和国、ニジュール川、1968/1/26。 写真5: 東南アジア探検でジャワ島レンパンの植生を見る吉良竜夫。1978/12/18。

大学の知を発掘!
038

探検の時代の科学研究 —熱帯・亜熱帯の植物—

1980年代まで続く探検の時代には、自然と農業や人間の営みとがフィールド調査の対象であった。大阪公立大学教育研究フィールドの標本キャビネットに保存されている資料から、その一部を見てみよう。探検博物学の領域を開いた中尾佐助（浪速大学・大阪府大農学部 1949-1980 在職）は、1952年と53年のマナスルでの植物調査の後、カラコラム、シッキム・アッサム、西アフリカ、タイ、インドネシア、パプアニューギニアそして太平洋各地を訪れ、最後の海外探検は1984年の中国雲南省探検である。農学部¹⁹¹⁶⁻¹⁹⁹³に所属していた中尾は、遺伝育種学を担当していたこともあり、農作物や食材、料理方法、庭園植物と観賞植物資源を対象として、多くの論文を発表している。中尾の採集物は初期の観察が終わると関連する専門家へ分譲し、作成した莫大な標本は植物園などを備えた学術機関へ送付しているため、大阪公立大の標本キャビネットにはわずかしか残っていない。

熱帯と亜熱帯の農作物の代表であるサトイモやヤマモモやバナナなどの採集品は教え子にあたる堀田満¹⁹³⁵⁻²⁰¹⁵（元鹿

児島県立短期大学学長）に渡している。中緯度温帯の森林地帯で営まれる定住社会の農作物と違ってここでは野生種とともに狩猟採集段階の植物が多く、一般人にはなじみが薄い。残っている標本から中尾佐助スライドDBを参照しつつ、いくつかを紹介する。

<熱帯低湿地の植物> 擬態雑草の標本:『秘境ブータン』(中尾 1959)の著作となった1958年探検の翌年に、中尾は、木原均(京都大学教授)と共にアッサム・シッキムの探検にでかけている。水田の浮稲によく似たタイワンアイアシ(イネ科)はイネへの典型的な擬態雑草である(写真1,2)。外観は水田雑草の浮きヒエと見間違いが、穂が出ると判別できる。小さな種子は食用になる。穂のないステージには茎を巻く葉の特徴で見分ける。中尾は、『栽培植物と農耕の起源』(1966)でイギリス系学者による「肥沃な三日月帯から周辺地域への一元的農業伝播論」を批判して、「播種から収穫、料理体系、生活文化を一セットにした農耕文化複合の形成を農耕の起源とする仮説」を提示した。野生種子の収穫が脱粒性の喪失と栽培化をもたらし、除草からの回避が擬態性をもたらすと考えていた。



大阪公立大学・高専基金へのご寄附のお願い
お申込み時に「特定プロジェクトのために:⑨-3」を選択してください。
(⑨-3:1号館ミュージアム構想のために)

【お問い合わせ】 渉外企画課 TEL: 06-6605-3415
<https://www.omu.ac.jp/fund/>

編集発行
大阪公立大学 大学史資料室
協創研究センター・大学史編纂研究所
杉本キャンパス学術情報総合センター6階(大学史資料室)
Tel : 06-6605-3371 E-mail : gr-gakj-archives@omu.ac.jp

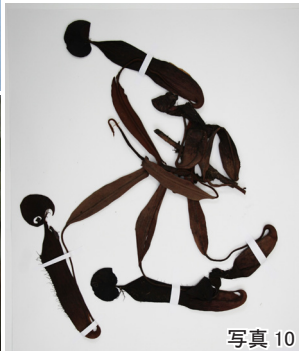


写真6:フタバガキ標本のカバーの新聞紙。Pasho forest, 12/10 1978, *Dipterocarpaceae* (フタバガキ属)と書かれている。写真7:フタバガキの葉。マレーシア、1978/12/10。写真8:フタバガキの果実。コルカタ植物園、インド、2010/3/26。写真9・10:ウツボカズラの捕虫囊。生態(写真9)と標本(写真10)。ウル・カリの森、マレーシア、1978/12/8。写真11:フィジー産の押し葉標本のカバー。植物検疫時のスタンプが添えてある。左上はそのスタンプ。写真12:トウツルモドキ属の一種。フィジー、1982/1/2-6。※写真1~4、6、7、10~12の標本は、中尾佐助コレクション。写真5、9は、中尾佐助スライドデータベース。標本写真と写真8は、山口裕文撮影。

西アフリカ探検：1968年パリを經由して入国したマリ共和国では中尾は1月20日にニジュール川の畔で麦や野菜の栽培を見て、野生イネの群落の中に生育していた多年生雑草の浮きヒエを採集している。2月3日にはダホメ共和国(現在のベナン共和国)で、その種子を食用にもアロマテラピー用の油脂にも使うシアバターノキ(アカテツ科)を採集している(写真3)。この探検では、雑穀やイモ類のほかコーラノキ(アオギリ科)など樹木につく果実の利用を注視している。マリ国では果実の中の粉上の種子を食用するスイレンの一種(スイレン科)をニジュール川の舟から採集している(写真4)。

<熱帯雨林の植物> 東南アジア探検：1978年末から大阪公立大学の前身になる大阪市立大学理学部の吉良竜夫(1949-1981在職、写真5)とともに中尾は、タイ、インドネシアなどを視察している。マレーシアではクアラランプールに近いパショのジャングルを訪れている。熱帯雨林はフタバガキ(フタバガキ科、写真6~8)やショレア(フタバガキ科)の林冠に覆われ、林床は暗く、土壤が発

達しにくい。着生植物や苔類が多い。残っている標本には食虫植物のウツボカズラ(ネベンテス、ウツボカズラ科、写真9、10)がある。食虫性は限られた分類群にみられ、植物進化の上では一度出現し、ハエトリグサ科やムジナモ科、ウツボカズラ科などに分岐し、一部の系統では食虫性はなくなっている。南太平洋探検：1982年に植物検疫を受けた標本がある。病害虫の侵入を防ぐため海外からの植物導入には法令対応が求められる(写真6、11)。植物検疫法の成立以降、規制は年々厳しくなっている。イネは、どの国の産でも乾燥した藁やもみ殻も導入できない。近年はカルタヘナ条約の締結によって再生可能な断片も手づきが必要となっている。フィジーではトウツルモドキ属の一種が採集されている(写真11、12)。本種では芳香のある茎葉をココヤシ油の中で砕き香油とする。茎は裂いて結束材やマット網とする。このように、探検で採集された植物標本は、著作での証拠として保存される。

(大阪府立大学名誉教授 山口裕文)



資料室だより

◆大学史資料室では「大阪公立大学 大学史資料室 NEWS LETTER」を発行しています。大阪公立大学の貴重な学術資料や大学の歴史を紹介します。◆この「NEWS LETTER」は、大阪市立大学「140周年展+大学史資料館(大学博物館)設立準備 NEWS LETTER」の後継紙であり、「大学の知を発掘!」の番号を引き継いでいます。両紙とも大阪公立大学 大学史資料室のホームページ、図書館ホームページの機関リポジトリで公開しています。

大学史資料室からのお願い

現在、学内にある資料の所蔵調査を行なっています。学術資料そのもの、研究の過程で残された資料類、実験装置や器具類、実習に用いられた教材や作品などを、大学史にかかわる資料とともに探しています。候補となる資料がありましたらご一報ください。

→杉本キャンパス学術情報総合センター6階 大学史資料室
Tel: 06-6605-3371